

スポーツを地域活性化の起爆剤に

それぞれの地域に合った「スポーツマネジメント」を追究

「スポーツにかかることで幸せになる人が増えてほしい」と、スポーツマネジメントに関する研究に取り組む柳久恒講師。自らも学生時代に長くバスケットボールに没頭した経験を持ち、「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」を通じた地域活性化に強い関心を持つています。

その具体的な研究テーマの一つは、「人とのつながり」。2011年には、本格的スポーツコミュニケーションである「さいたまスポーツコミュニケーション」が、たまたま埼玉市に誕生。「神戸学院大学が立地する関西でも、一般団体や法人関西経済同友会が、地域の実情に合った活動内容や組織形態について研究を続けていているようです」

柳講師のもう一つの研究テーマは「スポーツマーケティング」。スポーツマーケティングとは、一般的にはスポーツを第一目的とした旅行などのこと。「スポーツ選手

が「スポーツコミュニケーションの可能性」。スポーツコミュニケーションとは、スポーツを地域活性化の資源としてとらえ、スポーツ大会やイベントなどを誘致・開催しようとする組織のこと。「他の国や地域から人(選手や観戦者など)を招くだけではなく、地域の人たちにより多くのスポーツの機会を提供する、

つまり『人とスポーツをつなぐ』ために何が必要かを研究しています」。2011年には、本格的スポーツコミュニケーションである「さいたまスポーツコミュニケーション」が、たまたま埼玉市に誕生。「神戸学院大学が立地する関西でも、一般団体や法人関西経済同友会が、地域の実情に合った活動内容や組織形態について研究を続けているようです」

災害からの復興におけるプロスポーツの役割を調査

また、それらの研究を基盤として今年4月から3カ年計画で取り組むのが、科学研究費補助金の申請が採択された「震災復興とスポーツマーケティング」。スポーツマーケティングとは、「メディアでも報道されていましたように、震災後、プロスポーツを通じて被災者を元気づけようとしていただけの立派な団体や選手がスポーツ指導や交流

した活動事例が多くあります。特に東日本大震災で被災した地域のプロスポーツが地元で果たしてきた役割や効果などを調べ、災害からの復興におけるプロスポーツの意味や価値を明らかにしたいと考えています」

柳講師がこれらの研究の目的としているのは、スポーツが「地域活性化の起爆剤」になりうること。「スポーツ活性化の起爆剤」になりうるという認識を広めること。「スポーツ立国の実現を謳つたスポーツ基本法(11年8月施行)に基づき、今年3月、スポーツ基本計画(文部科学省)が策定されました。国民の間でも、ランニングなどがブームになり、7月にはロンドン五輪が開催されるなど、スポーツに対する関心が高まっている今が、スポーツ振興にとって非常に重要な時期です。スポーツコミュニケーションやスポーツマーケティングにに関する私の研究が、地域の活性化だけでなく、子どもも含むすべての日本人の心身の健康維持や増進に役立ていただけるよう、取り組んでいきたいと思っています」



元気なパワーを未来のために



神戸学院大学

法学部 経営学部 人文学部 地域リレーション学 健康学部 薬学部 大学院

有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 Tel.078-974-1551(代)
ポートアイランドキャンパス 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 Tel.078-974-1551(代)
長田キャンパス(法科大学院) 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 Tel.078-691-4888(代)



KOBE GAKUIN SINCE 1912
学校法人神戸学院は
2012年に100周年を迎えた。